

## 多様な価値観の交わる中で

花卉園芸学研究室学部4年

渡辺 史

柏の葉キャンパス駅周辺の大規模開発は、かなり落ち着いてきました。駅からキャンパスまでの道沿いには、ベンチが設置され人々が思い思いにくつろいでいる姿がみられます。そんな周囲の環境とは別に、常に変化の絶えない千葉大学柏の葉キャンパスの今をお伝えします。

### 柏の葉キャンパス花卉園芸学研究室の今

柏の葉キャンパスは、現在渡辺先生・金谷先生の両先生を始めとした教職員、技術職員の方々に日々ご指導いただきながら、13名の学生が研究を行っております。研究内容は、地理系統学から、屋上緑化、花色や葉色の変化の生理的機構、園芸植物の耐塩性など、他の研究室と比べても多岐にわたっており、花卉研の大きな特徴の一つとなっています。学生の年齢層も上は博士後期3年から下は学部2年生まで幅広く、上級生が下級生を指導する場面も多く見られます。また研究だけでなく、週に一度『高度化セル成形苗生産利用システム』を利用した花苗の実践的技術を学んでいます。実際に販売する商品を作るという作業を通して、多様な植物の栽培方法について学ぶと同時に、知識を実践にどう結び付けるかを考える機会にもなっています。

今年の3月～4月に薬草園の改修が行われ、学生も改修の初期段階から関わりました。敷石をはがしたり、防草シートを張ったり通常では経験できない作業を行うことができました。今回の改修で、始めから終わりまで施設を作り上げる貴重な経験を得ることができました。新しい薬草園には池が設置されています。学生が何もない更地から池の原形となる穴を掘り、専門の方の手によって最終的な施工が行われました。ハスやガマなどが植えられ、メダカが悠々と泳いでいる姿を見ることができます。日常的に見慣れた植物が、薬用植物として利用できるなど新たな発見も多く、充実した期間であったと思います。現在では、診療所の患者さんが診療の合間に見て回られていたり、外部から見学の方が訪れたりと多くの人に見ていただいています。

### 学生の日常

学生は各人がまったく異なる内容の研究を行っているため、日々の活動は個別に行っている場合が多くな

ります。しかし、学生間の話し合いは活発に行われており、自身の研究での疑問点をお互いの専門分野の知識を総動員して議論する中で、1人では考えもしなかったような発想に至ることもあります。松戸の学生とも交流は続いており、現在は、大学祭に向けて両キャンパスの学生間で協力して花苗の栽培や球根の仕入れなどを行っている最中です。キャンパスは異なれど、花卉園芸研究室としてのつながりは今も昔も変わらないものだと思います。

### 今後変化していく業界の中で

東京オリンピックなどの大きなイベントが控え、社会のニーズが常に変化している状況の中で、いかにして花の消費を増やしていくのか、従来とは異なる植物の利用法はないかということを考えることができる環境が、柏の葉キャンパスにはあると感じています。薬学の先生方、共同研究先の方とゼミや共同作業をご一緒させていただいていることから、園芸学的な視点とはまた違った多様な視点で植物と人のかかわりを知ることができ、自らの視野を広く持つことにもつながっていると感じています。

また、取引先や研究室のOG・OBなどの多様な立場の方々とお話しをさせていただく機会も多く、時に議論に混ぜていただく中で、花卉業界の今を知るとともに、今後自分たちが社会に出たとき、どんな場面でのどのような役割を果たせるかを真剣に考える場を与えられていることに感謝しています。このようなチャンスを生分に生かすため、これからも日々精進していきたいと思います。今後も皆様のご支援・ご指導をよろしくお願い致します。

